

医療薬学研究に関する情報公開

松山大学薬学部では、薬学・医学および医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で以下にお示しする研究では、愛媛大学病院、岡山大学病院、徳島大学病院と共同・承認のもと患者さんのカルテの記録を使用します。本研究の内容を詳しく知りたい方やご自身の情報を除いて欲しい方は、下記の【お問い合わせ先】先までご連絡をお願い致します。他の患者さんの個人情報の保護および知的財産の保護等に支障がない範囲でお答え致します。

【研究課題名】

抗がん剤誘発末梢神経障害に対するレニン・アンジオテンシン系阻害薬の影響

【研究責任者】

松山大学薬学部 准教授 高取 真吾

【研究目的】

抗がん剤により誘発される末梢神経障害に対して、有効な効果を示すお薬や予防方法は、未だに確立されていません。これまでに研究責任者らは、愛媛大学病院において実施した後方視的カルテ調査において、オキサリプラチン誘発末梢神経障害に対するレニン・アンジオテンシン系（RAS）阻害薬の予防効果について明らかにしました。さらに、徳島大学病院と共同実施したビックデータ解析により、RAS 阻害薬はオキサリプラチン、パクリタキセルおよびビンクリスチン誘発末梢神経障害に対しても有効性を示すことも明らかにしてきました。そこで本研究では、愛媛、徳島および岡山大学病院の多施設における後方視的カルテ調査を実施（調査期間：2009年5月～2016年12月）し、新規かつ追加エビデンスの構築を主な目的としています。

【研究意義】

抗がん剤により誘発される末梢神経障害に対して、有効な効果を示すお薬や予防方法について明らかにすることにより、安全かつ安心な抗がん剤治療の提供と患者さんの生活の質を高めることにも貢献できると考えています。

【調査対象となる患者さん】

・選択基準

オキサリプラチン、パクリタキセルおよびビンクリスチンのいずれかの抗がん剤を使用（対象とした抗がん剤を含有するレジメンを含む）したがん化学療法と高血圧症治療薬（ACE 阻害薬もしくは ARB など）を併用した患者さん。

○除外基準の患者さん

- ・がん化学療法以外に末梢神経障害を生じる要因（糖尿病、自己免疫疾患など）を合併
- ・調査期間開始前より上記3剤の抗がん剤の投与歴あり
- ・抗がん剤以外の要因や以前実施したレジメンにより、末梢神経障害の既往もしくは残存あり
- ・带状疱疹等の感染症により、末梢神経障害を併発した既往歴あり
- ・末梢神経障害の重症度が未評価
- ・臨床試験に参加している
- ・調査期間内に転院
- ・上記3剤の抗がん剤を投与後、1ヶ月以内に死亡

【研究方法】

調査対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を抽出して調査します。

年齢、性別、体表面積、体格指数（BMI, body mass index）、既往歴、抗がん剤の投与量（累積投与量）、抗がん剤の減量・休薬の有無、レジメン、投与クール数、がん種、eGFR、ALT、AST、併用薬剤の有無・服用期間、末梢神経障害の発症状況など。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化します。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【研究実施機関および研究担当者】

松山大学薬学部

教授 川崎 博己

教授 難波 弘之

准教授 高取 真吾

学生 内田 真美

愛媛大学病院薬剤部

薬剤部長 准教授 田中 亮裕、

薬剤副部長 田中 守

助教 飛鷹 範明

岡山大学病院薬剤部

薬剤部長 教授 千堂 年昭

薬剤副部長 准教授 北村 佳久

徳島大学病院薬剤部

薬剤部長 教授 石澤 啓介

講師 座間味 義人

特任助教 武智 研志

【お問い合わせ先】

松山大学薬学部 准教授 高取 真吾
790-8578 愛媛県松山市文京町 4-2
電話番号 (代表) : 089-925-7111
E-mail: stakator@g.matsuyama-u.ac.jp